

研究課題：小児好酸球性消化管疾患の内視鏡所見についての検討

1. 研究の目的

好酸球というアレルギーや寄生虫除去に関わる免疫細胞が消化管に浸潤することで消化管機能障害を呈する疾患を好酸球性消化管疾患とといいます。近年、増加傾向を示していますが、明確な診断法や治療法は確立されていないのが現状です。今回、私たちは消化管内視鏡所見として赤白反転像（消化管のヒダの間が発赤し、ヒダが白色調に変化する所見）を示した小児好酸球性胃腸炎患者さんを5例経験いたしました。小児好酸球性消化管疾患における本所見を含めた内視鏡所見についての検討は少ないことから、多施設共同研究による調査を実施することにいたしました。

2. 研究の方法

本研究の対象となる患者さんは、当該施設にて小児期に発症した好酸球性消化管疾患の患者さんです。好酸球性消化管疾患を診療している全国の5施設にアンケート調査を行います。

3. 研究期間

倫理委員会で承認された後～2020年3月31日

4. 研究に用いる資料・情報の種類

利用させていただくカルテ情報は下記です。
小児期に発症し診療を受けている好酸球性消化管疾患の患者さんの有無と症例数、消化管内視鏡所見(胃、十二指腸、小腸、大腸における発赤、潰瘍、赤色反転像、などの有無)、治療内容(使用した薬剤、栄養療法の有無など)、治療により前記の消化管内視鏡所見がどのように変化したか、についてです。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

患者さんの情報は、個人を特定できる情報とは切り離した上で使用し、研究代表施設の順天堂大学附属順天堂医院小児科・思春期科に情報を提供いたします。また、研究成果を学会や学術雑誌で発表されますが、患者さん個人を特定できる情報は含みません。

6. 研究組織

研究代表施設と研究責任者

順天堂大学医学部附属順天堂医院小児科・思春期科・助教 神保圭佑
当院研究責任者

埼玉県立小児医療センター消化器・肝臓科・医長 岩間達
研究参加施設と研究分担者

宮城県立こども病院消化器科・部長 角田文彦

国立成育医療研究センター器官病態系内科部消化器科・医員 清水泰岳

大阪母子医療センター消化器・内分泌科・医長 萩原真一郎

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2020年3月31日まで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）

研究担当者：消化器・肝臓科 吉田正司